

私たちの活動や意見を仲間で共有します。
会費は県と日本平和委員会の活動も支えます。

土浦平和の会ニュース

2018年12月15日 第322号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP://heiwatutira.web.fc2.com/

年の瀬 2018年

暴走する安倍政治と市民＋野党の激しい対峙、来年が正念場の年に

土浦でも大きく前進した9条改憲反対の取り組み

安倍内閣の暴走政治が際だった2018年。国民の願いととは全く逆方向にアクセルが踏まれ続けています。

繰り返し、繰り返し「新基地NO!」の民意が示された沖縄では、辺野古への土砂投入が強行され、そして臨時国会終盤では、入管法、漁業法、水道法など、議論すればするほど欠陥が明らかになるなか、議論をそそくさと打ち切り、理屈抜きの強行採決が繰り返されました。データの改ざんや議員と金の問題も繰り返されました。国会と国民を愚弄する暴挙です。

一方、安倍首相が今国会で提示しあわよくば発議まで狙っていた9条改憲は、市民と野党の反対でブレーキをかけたことは貴重な成果でした。

消費税批判逃れのためにあれこれの緩和策を弄しているのに対し、「増税しないのが一番の景気対策だ」という野党の主張が的を射ています。

2018年、平和を求めるたたかいの中心は3000万人署名でした。平和の会も加わる土浦憲法共同センターの統一行動は30回に到達し、延べ参加者330人、990筆の署名を集めました。このほかに9条の会や新婦人、年金者組合などの独自行動も旺盛に行われています。9条の会有志の交差点スタンディングは44回に達しており、地道な努力に頭が下がります。3000万人署名は2019年に引き継が

下写真
県平和の会主催全県一斉行動(10/15)は、全国「平和新聞」で大きく報道されました。



れます。また、統一地方選挙、参議院選挙と続く選挙の年でもあり、前進のチャンスOfYearでもあります。新しい年を喜びの年にするため引き続き力を合わせましょう。



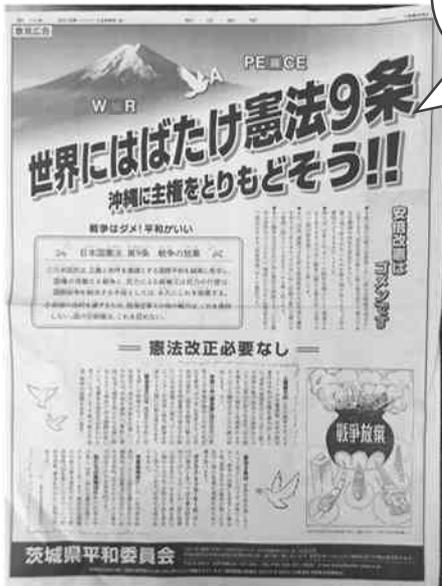
下写真
土浦駅頭での宣伝・署名は9回実施
かすみがうら平和の会からの連帯参加も

土浦憲法共同センターの統一行動

ことし30回、330人参加・990筆

18.01.18	地域ピラ配布	木田余東台	17名
18.01.21	各戸訪問署名	木田余東台	23名、130筆
18.02.03	各戸訪問署名	木田余東台	8名、68筆
18.02.08	駅頭宣伝・署名	土浦駅	14名、39筆
18.02.15	商店街訪問署名	土浦	10名、52筆
18.03.10	各戸訪問署名	土浦永国	8名、29筆
18.03.24	各戸訪問署名	土浦おおつ野	19名、50筆
18.03.31	署名交流会	CO-OP	24名
18.04.08	各戸訪問署名	土浦港町	4名、22筆
18.04.10	駅頭宣伝・署名	土浦駅	10名、38筆
18.04.22	各戸訪問署名	土浦霞ヶ岡	9名、34筆
18.04.28	各戸訪問署名	中貫GH土浦	13名、36筆
18.05.17	駅頭宣伝・署名	土浦駅	16名、42筆
18.05.20	各戸訪問署名	港町2・3	9名、30筆
18.05.27	各戸訪問署名	桜ヶ丘	9名、41筆
18.06.09	各戸訪問署名	桜ヶ丘	6名、16筆
18.06.13	駅頭宣伝・署名	土浦駅	9名、33筆
18.07.12	駅頭宣伝・署名	土浦駅	14名、24筆
18.07.22	各戸訪問署名	天川2	5名、23筆
18.08.04	各戸訪問署名	中高津新町	5名、31筆
18.08.19	各戸訪問署名	天川1	6名、17筆
18.08.23	駅頭宣伝・署名	土浦駅	9名、33筆
18.09.16	各戸訪問署名	乙戸南3	10名、55筆
18.09.20	駅頭宣伝・署名	土浦駅	9名、27筆
18.10.06	各戸訪問署名	乙戸南1・2	6名、24筆
18.10.13	各戸訪問署名	上高津新町	4名、11筆
18.10.21	各戸訪問署名	白鳥町	8名、28筆
18.10.31	駅頭宣伝・署名	土浦駅	8名、16筆
18.11.11	各戸訪問署名	東都和団地	10名、25筆
18.11.21	駅頭宣伝・署名	土浦駅	8名、16筆

「朝日新聞」(12/8付)に 全面意見広告掲載



土浦平和の会の取
り組みでは83個人・
3団体の賛同をいた
だきました。

辺野古への土砂投入に断固抗議する

沖縄県民の怒りの炎をさらに燃え広げる
政府の暴挙に断固抗議する。沖縄県民と連
帯して“あきらめずに”たたかきましょう。

「平和委員会」のこと あらためて紹介

●歴史 日本平和委員会は、1949年に生まれました。
アジアの人々2000万人、日本国民300万人の命を奪った日本
による侵略戦争(アジア・太平洋戦争)のあと、私たちの先
輩は、“戦争はもう繰り返さない”と誓い、その思いは日本
国憲法9条に結実します。
しかし、「東西対立」が強まり、再び戦争の匂いがたちこ
めるようになります。こうしたなか、1949年にパリとプラハ
で平和擁護世界大会が開かれ、日本においても平和擁護日本
大会が開催されました。この大会を契機に「日本平和をまも
る会」(現在の日本平和委員会)が結成されました。

たんざん 石橋湛山が主張したこと

山梨平和ミュージアム展示シートより

今年の平和の旅(前号で詳報)
で訪れた石橋湛山記念館(甲府
市)で学んだ湛山の見識の一部
を紹介します。戦後、わずか2
か月で退陣(病気のため)したと
はいえ、日本の総理大臣の一人
が貫いた信念には眼を見張るも
のがあります。



日本防衛論

軍備拡張は国力を消耗させるだけで国防
を全うできず、結果的には国を滅ぼすとし
て、国民の一致団結と国際連合中心の平和
外交を主張した。日本国民への遺言でもあ
る。

鮮人暴動に対する理解

朝鮮での三・一独立運動の重要な意義を
述べた湛山は、民族自決・自治実現の日ま
で朝鮮人民の反抗のやむことがないことを
警告し、日本国民の無反省を責めた。

我に移民の要なし

我が国民は人口過剰の憂という根拠なき

謬想(びゅうそう)に駆られているが、工業
と貿易の発展により人口問題は解決される
ことを説き、帝国主義の主要な論拠である
移民の必要性を根底から批判した。

禍根を残す外交政策

大隈重信内閣が第一次世界大戦中に、中
国に突きつけた対華21か条要求について、
露骨なる領土侵略政策と軽薄なる挙国一致
論の跋扈(ばっこ)は、世界を挙げて我が敵
となすものであり、帝国百年の禍根を残す
と批判した。

婦人を社会的に活動せしめよ

教育界への婦人の活用(学校の生徒保護
者会、市町村の学務委員等への参加)、購
買組合活動を婦人に任せるなど、社会全般
にわたって婦人の力を積極的に活用すべき
ことを主張した。

湛山の次の内閣が岸信介内閣(1957~)、
湛山から数えて22人目の総理大臣が現在の
安倍内閣です。「(湛山の)爪の垢を煎じて
飲め」と言う気すらおきない戦後最悪の内
閣には「一日も早く退陣を」の言葉しかあ
りません。

【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 「平和新聞」(毎月5、15、25日発行)月額400円

